

即興表現における  
言語課題を動きに「転換」する際の  
転換のしやすさと動きの類似性の関係

齋藤瀬奈・寺山由美  
(筑波大学)

## 1. 研究背景・目的

ダンス学習において、即興表現は、表現の根源的な行為として重要な活動と位置付けられている。しかし、即興表現の中核である「構想をその場でどのように現実化するのか」はあくまで個人に委ねられていることが指摘されている。構想をどう現実化するのかについて、本研究ではこの行為を「転換 (translation)」と呼ぶ。これまで即興表現の指導に関わる実践的研究は多くされているが、さらなる検討のためには、転換についての理論的研究も必要であると考えられる。

先行研究では、齋藤・寺山 (2025) が、複数の言語課題を用いて動きに転換する実験を行い、動きに転換できた人数、転換に要した時間を集計した。その結果、言語課題によって転換のしやすさに違いがあることが明らかとなり、転換しやすい課題は、イメージ図式でとらえている可能性が示された。しかし、転換のしやすさが何に起因するのかは量的な調査だけでは検討しきれない。西尾 (1998) の身振り研究から、身振りとして現れるのはイメージ図式であることが示されており、また発話に付随する身振りが発話者間で共通していることが示されている。このことから、言語課題を動きに転換する際も、あるイメージ図式でとらえると、その図式がそのまま動きに現れると考えられる。そして、転換しやすい課題ほど、対象者間で共通した動きが見られる可能性がある。

本研究は、言語課題を動きに転換する際、転換のしやすさが何に起因するのかを検討することを目的とし、実験から、転換のしやすさと動きの類似性の関係を明らかにする。

## 2. 研究方法

### 1) 対象者と期間

対象者はA大学に在籍するダンス非専門の大学生・大学院生男女 33 名とした。

実験は 2021 年 9 月 6 日～29 日に実施した。

### 2) 実験の概要

実験内容は、筆者が言語課題を提示し、対象者が動きに転換するというものである。対象者の動きは映像に記録した。

### 3) 分析方法

分析対象とする言語課題の試技は、齋藤・寺山 (2025) において動きに転換しやすかった課題「爆発」、「波」、「芽生え」、「渦潮」、「台風」、「竜

巻」、「噴火」と、動きに転換しにくかった課題「水面のきらめき」、「陽だまり」である。

映像記録を筆者と有識者 2 名とで観照し、以下の手順で動きを分類した。①動きを文章化する、②動きを一つの動作で区切る、③動作の特徴を抽出する、④共通する特徴でグルーピングしラベルを貼る、⑤カテゴリ化する。

## 3. 結果と考察

まず全体の結果として、転換された動きは、自然現象そのものの動きをあらわす【運動図式】と自然現象の中にいる人の動きをあらわす【役割運動】の大きく 2 つに分けられた。また、【運動図式】と【役割運動】のどちらともとれる動きがあった。

次に、言語課題ごとの結果から、「爆発」、「台風」、「水面のきらめき」、「陽だまり」の結果を抜粋して載せる。「爆発」では、【運動図式】で 2 パターン、【役割運動】で 2 パターン、【運動図式/役割運動】で 1 パターンの動きが出現した。そのうち、共通する動きの出現数が最も多かった動きは、【運動図式】の [拡散] (31 人/33 人、94%) であった。「台風」では、【運動図式】で 7 パターン、【役割運動】で 4 パターン、【運動図式/役割運動】で 1 パターンの動きが出現した。そのうち、共通する動きの出現数が最も多かった動きは、【運動図式】の [回転] (19 人/33 人、58%) であった。「水面のきらめき」では、【運動図式】で 16 パターン、【役割運動】で 2 パターンの動きが出現した。共通する動きの出現数が最も多かった動きは、【運動図式】の [微細運動] (9 人/26 人、35%) であった。「陽だまり」では【運動図式】で 8 パターン、【役割運動】で 7 パターン、【運動図式/役割運動】で 7 パターンの動きが出現した。共通する動きの出現数が最も多かった動きは、【運動図式】の [下降・対角線] (6 人/27 人、22%) と [丸] (6 人/27 人、22%) であった。「爆発」と「台風」では、対象者の半数以上に共通した動きが見られた。一方で、「水面のきらめき」、「陽だまり」ではそのような結果は見られなかった。

## 4. 引用参考文献

ジョンソン：菅野盾樹・中村雅之訳 (1991) 心のなかの身体：想像力へのパラダイム変換。紀伊國屋書店。

齋藤瀬奈・寺山由美 (2025) 即興表現における言語課題を動きに転換することの実態：ダンス非専門の対象者への実験調査。体育学研究, 70 : 417-432。

西尾新 (1998) 比喩的身振りに見られるイメージ：認知意味論的考察。京都大学教育学部紀要, 44 : 112-127。